

平成二十六年年度 金子鬼太のふるさと投句第二回特選・入選作品

選者 秩父郡市俳句連盟会長 金子千侍

特選大人の部

結願の鶴折り祈る冬桜

春日部市 高橋 湊子

講評

秩父札所三十四寺のお参りが了り、遷俗した自分に漂う鈍化した心を尊く思うのであります。水潜寺の観音様への御礼に鶴を折って捧げ、深々と頭を垂れるのです。清楚で、きりつとしまつた冬桜のほのかな香り、美しさが、作者の結願を称えているのです。

浴衣着て下駄っつけて合歡の盆

伊勢崎市 川端 一美

講評

浴衣を着て、下駄をつっかけて、忙しく秩父音頭まつりに加わった。一見単純な表現で詩的感覚の乏しい作品のように思えますが、五七調のリズム感を持って作者のうきうきと高揚した感情が軽快に表現されている秀句です。

蕎麦掻や昔この地に一揆あり

草加市 樋口 素秋

講評

明治十七年十一月一日、田代栄助を総理とする秩父困民党一万余名による農民一揆が勃発しました。農民の経済的困窮を回復する為の政府への訴えでありました。米の生産は少なく、麦、蕎麦、芋を主食としており、蕎麦掻は秩父の高級食でした。作者は秩父へ来て、蕎麦掻を食べて、秩父事件を彷彿とさせたのでしよう。

沢蟹毛桃食いくらみたつ困民史 兜太

入選

大人の部

秋光や結願まぶし沢の音

入間市 大須賀 武

冬桜結願に咲く水潜寺

さいたま市 川久保 千絵

上にまた杣の集落蕎麦の花

さいたま市 増田 信雄

秩父路に蕎麦掻食す同窓会

深谷市 馬場 京子

錦秋の峠越えして水潜寺

皆野町 萩原 繁

沢音か落葉時雨か宿の朝

葛飾区 井上 和佳子

熊出るの注意札立ち山眠る

羽生市 半田 かほる

無患子の黒の輝き蜂起の地

草加市 伊熊 美智子

母の背を見守り歩く御開帳

秩父市 小室 博男

菊大輪貧しきことを忘れけり

台東区 羽下 勝彦

小人の部

水泳のあいまに香る夏の風

皆野町 橋本 章吾

ほごさんへおとさんともみじがり

館林市 しまむら ひかる

S.Lの足もと彩る曼珠沙華

皆野町 倉林 稔

ごりやくがあるといいなふだしよめぐり

東松山市 野原 瑤介

美の山やいろいろな山こうようだ

秩父市 たかはし つばさ